

# 千葉県少年野球大会特別規則

## 大会競技規則

1. 最新年度「公認野球規則」並びに全日本軟式野球連盟「少年野球に関する事項」及び「大会特別規則」を適用する。

## 大会特別規則

### **(出場資格及びチーム構成)**

1. 大会の出場資格は、特定非営利活動法人千葉県少年野球連盟(以下「法人」という。)の構成会員(以下「チーム」という。)であり、大会抽選によって定められた試合の勝者となった場合、最終日の試合まで参加できるチームであること。
2. チーム構成は、成人者による代表者、監督、コーチ(2名)、スコアラー、介護員と選手(小学生)20名以内とする。(ベンチ入り指導者は、認定指導有資格者1名を含む。)
3. 出場チームは、この法人の定款、大会規程、大会特別規則を遵守する外、地区、地域予選も含め選手を他チームから補強及びその他の不正を行うことを禁止する。
4. 前項に違反した場合は、没収試合とし相手チームに勝利を与えるものとする。
5. 前3項に違反したチームに対しては、後日、協議し処分を通知する。
6. 前3項に掲げるものの外、指導者及び選手の不正もチームの責任とする。

### **(服装・用具)**

1. 同一チームの監督、コーチ、選手の服装は、同色、同形、同意匠のユニフォーム(帽子、ストッキング、アンダーシャツを含む。)を着用すること。ただし、代表者、スコアラー、介護員の服装は、帽子に限り同色、同形のものを着帽し、靴は、運動靴を着用する。
2. 背番号は、監督30番、コーチ28番・29番、主将10番、選手は、0番から27番までとする。
3. スパイクシューズは、監督、コーチ及び選手は、全員同色、同形とする。(金属製の使用を禁止する。)
4. ヘルメットは、「JSBB」マーク入りで両側にイヤラップの付いたものを、最低8個用意し、打者、次打者、走者、ランナースコーチャーが着帽する。
5. 捕手(控え捕手も含む。)は、マスク(スロートガード付)、レガース、プロテクター、ヘルメットを使用すること。
6. 使用球は、全日本軟式野球連盟公認球「C号球」とし、金属バットは「JSBB」マ

ーク入りの公認のものに限る。

7. 投手の守備を除く、選手(打者、守備)の手袋使用は、単色に限り認める。
8. 選手のリストバンドの使用は、認めない。

### **(抽選会・開会式)**

1. 大会の開会式での選手宣誓は、試合組合せ抽選結果に基づき、出場する全チームの中から理事長(不在の易合は・副理事長外)が、抽選番号クジを引いたチームの選手とする。
2. 大会開会式での各チームの集合時間は、開始時刻30分前までに受付を終了し、選手は指定された入場行進場所に整列していること。
3. 各チームの入場行進順は、先頭は前年度優勝チーム続いて準優勝チーム及び本抽選番号の若番から順次行進する。
4. 大会に出場する選手は、開会式に参加するものとし、特別な理由がない限り、これに違反した場合は、試合に出場することはできないものとする。

### **(試合の集合時間・準備)**

1. 第1試合のチームは、試合開始予定時刻1時間前までに集合し、球場責任者による受付を終了すること。第2試合、第3試合のチームも同様とする。
2. 試合中止の場合は、大会本部から連絡する。雨禾による判断が困難な場合は、時間までに球場に集合し、大会本部の決定に従うこと。
3. メンバー表の提出は、第1試合は試合開始時刻30分前、第2試合以降は40分前までに、監督、主将が3部持参し、グラウンドルールや注意事項等を確認すること。  
ただし、特別な理由がない限り、上記の試合開始時刻30分前又は40分前までに、メンバー表の提出がなかった場合は、監督のベンチ入りは認めないものとする。
4. ベンチは、抽選番号の若番が1塁側とする。攻撃の先攻・後攻は、メンバー表提出時、トスにより決定する。
5. 試合前のシートノックは、後攻チームから開始し、時間は5分以内とする。  
ただし、前試合の遅れ又は天候不安等が生じた場合は、短縮又は中止して試合を開始する。
6. シートノック時のユニホーム着用指導者は、外野のシートノックの場合は選手から返球されたボールの捕球及びブルペンでの投球練習の捕手を行うことは認める。  
ただし、試合開始後は、選手の練習補助等は認めない。
7. シートノックを行う監督又はコーチにボール渡しを行う選手は、ヘルメットを着帽のうえ、トス渡しとする。主審へのボール渡しを行う選手は、ヘルメットを着帽する。
8. ベンチ入りの代表者、監督、コーチ等の指導者が、試合開始からゲームセットまでの間ベンチを離れた場合は、退場したとみなし再びベンチに戻ることはできない。  
ただし、特別な理由があり、審判員の許可を得た場合は、この限りでない。

### **(試合時間等)**

1. この大会の試合は、トーナメント戦とする。

2. 試合は、1試合7回均等回で勝敗を争うこととするが、タイムゲームを適用する。  
1試合1時間45分を超えたときは、新しいイニングに入らずその時点の得点をもって勝敗を決する。ただし、決勝戦は、この限りでない。
3. 得点差によるコールドゲームは、5回均等回終了後7点差のとき適用する。
4. 決勝戦は、得点差によるコールドゲームは適用しない。
5. 日没・降雨によるコールドゲームの適用は、4回終了後適用する。また、4回終了前については、特別継続試合(サスペンデッドゲーム)とし、後日の第1試合前に行う。  
日没・降雨の判断は、当該球場責任者、当該球場責任審判員が両チームの監督を招集し協議して決定する。
6. 決勝戦は、日没・降雨により5回前に試合を中止した場合は、後日再試合とする。
7. 1試合のタイム数の制限: 1試合攻撃側3回、特別ルール試合の攻守各1回とする。  
守備時は3人集まればタイム1回とみなす。
8. 木製バットを必ず1本ベンチに入れること。

### (試合)

1. 同一投手の投球回数は、1試合5イニング(特別延長戦も含む。15アウト)とする。  
2試合ある場合は、2試合目も5イニングとする。
2. 投手の変化球は禁止し、変化球に対してはボールを宣告する。再度繰り返した場合は、交代させる。
3. 打者走者は、走塁の時ベースコーチ又は選手に触れてはならない。走塁補助とみなしアウトを宣告する。
4. 臨時代走(コーティエーシランナー)を認める。代走は、打順前位の者、ただし、投手、捕手を除く。
5. 審判員に対するアピールは、監督、当該選手とする。
6. 選手交代を行うときは、監督が球審に申告する。
7. メガホンの使用は、監督に限り認める。
8. 監督が投手と協議するときは、マウンドまで駆け足を励行すること。また、選手への指示についても同様とする。(簡潔指示の励行)  
ただし、同一イニングに同様の行為を2回行った場合は、投手を交代させる。
9. アウトをとる意思のない投手の塁への送球は、遅延行為とみなす。
10. 悪質な抗議・野次等を発するチームには、当事者又はチーム責任者、監督の退場を大会責任者、球場責任者、当該審判が命じることができる。
11. 仮設球場等の試合は、球場責任者が球審と両チームの責任者と協議して、特別ルールを決定する。
12. 各チームの応援団並びにベンチは、相手チームに気分を害さないよう少年野球にふさわしい応援で臨むこと。

## (特別延長戦)

1. 7回終了時又は1時間45分を超え、後攻の攻撃終了時で同点の場合は、特別規則を適用し、直ちに「特別延長戦」を実施する。
2. 打者は、前回の継続打者、走者は前回の最終打者を1塁走者として、2塁、3塁のその走者は、順次前の打者が走者とし一死満塁で1イニングを行い、得点の多いチームを勝者とする。
3. 勝者が決定しない場合は、さらに継続打順で1イニングを行い、勝者が決定しない場合は、抽選とする。
4. 特別延長戦では、選手の交代は認める。ただし、特別延長戦に入る前に、既に交代した選手の交代は認めない。